

調査研究実施計画一覧

No	タイトル	研究期間 (年度)	部会	担当課	ページ
1	福岡市における光化学オキシダントの長期的な推移と高濃度要因の検討	R4～R5	環境	環境科学課 (大気担当)	1
2	浴槽水等の細菌群集構造(細菌叢)解析	R4～R6	保健	保健科学課 (細菌担当)	2

調査研究実施計画書

					分類	M、P
タイトル	福岡市における光化学オキシダントの長期的な推移と高濃度要因の検討					
担 当 課・ 担当者氏名	環境科学課 島田友梨、中島亜矢子、副田大介、辻井温子					
調査研究期間	令和4年度 ～ 令和5年度					
目的及び必要性	福岡市における光化学オキシダント(Ox)の環境基準達成率は全国と同様、極めて低い状態(令和2年基準達成局なし)である。Ox経年変化は地域によって傾向が異なっており、これには前駆物質の濃度のみならず気候や越境汚染も関連因子と考えられる。これらの既存データを地域毎に詳細に解析することで、NOx、VOC等の排出量変化等をはじめとする各種因子によるOx生成への影響評価を行う。この評価結果を踏まえた高濃度要因の検討から、Oxの実態把握を進め、対策の検討へ繋げていく。					
概 要	1. 福岡市の長期的なOxの経年推移 2016年3月に国から示された新指標等を用いて、福岡市におけるOxの長期的な経年推移を把握する。また、新指標値を離島(壱岐、対馬、五島)と比較することで、福岡市における域内汚染の影響を評価する。 2. 福岡市のOx高濃度事例の分類 福岡市における高濃度事例を抽出し、高濃度状況が越境移流、地域汚染、複合のどの要因で生じているかを、離島(壱岐、対馬、五島)のデータや後方流跡線解析、天気図から総合的に判断し、要因別にグループ分けをする。 グループ分けされた高濃度事例別にOx、NOx、NMHC濃度を調べ、グループごとの光化学オキシダントの生成が前駆物質であるNOxやNMHC濃度とどのように関わっているかを調査し、高濃度要因を検討する。					
年 次 計 画	R4	年度	R5	年度	年度	年度
	【データの収集・解析】		【データの解析】			
			○最終取りまとめ			
倫理委員会	要 ・ 不要	年月日	年	月	日	番号
		意見結果		<意見等>		
期待される成果	令和4～6年に実施されるⅡ型共同研究におけるOx高濃度化因子解明グループ(Ox高濃度)での情報と合わせて、本市における光化学オキシダントの実態把握と対策検討へのフィードバックができる。					
備 考						

調査研究実施計画書

				分類	C
タイトル	浴槽水等の細菌群集構造(細菌叢)解析				
担当課・ 担当者氏名	保健科学課 細菌担当 松永典久、井形かよこ、田上 紗弥加、笠 愛				
調査研究期間	R4年度 ～ R6年度				
目的及び必要性	【目的】 レジオネラ属菌(以下「<i>L. spp.</i>」)対策に資するため、<i>L. spp.</i>を検出した複数の浴槽水等の細菌群集構造(細菌叢)を解析し、共通して存在する菌等に関する知見を得、その知見から<i>L. spp.</i>汚染の指標への活用の可能性を検討することを目的とする。 【必要性】 1 腸内や土壌の細菌群集構造解析の報告は多いが、浴槽水等の細菌群集構造解析の報告は少ないため。 2 レジオネラ症予防のためには、その原因となる<i>L. spp.</i>の汚染状況を把握する必要があるが、その検査にはかなり時間を要することから、その検査に代わって迅速に汚染状況を推察できる指標が望まれているため。				
概要	【試料】 行政検収等で<i>L. spp.</i>検査のために採取された浴槽等の検体から抽出されたDNAとする。 【調査内容】 1 <i>L. spp.</i>が検出された検体の細菌群集構造(細菌叢)解析 2 <i>L. spp.</i>が2年連続で検出された施設検体の細菌群集構造(細菌叢)解析 T-RFLP法等を用いて浴槽水等の細菌群集構造解析を行う。				
年次計画	R4年度	R5年度	R6年度	年度	
	行政検収検体での解析		結果のとりまとめ		
倫理委員会	要・ ☐ 不要	年月日 意見結果	年 月 日	番号	
			<意見等>		
期待される成果	<i>L. spp.</i> に汚染された施設の細菌群集構造を解析し、共通して存在する細菌が明らかになれば、 <i>L. spp.</i> 汚染の指標として <i>L. spp.</i> 対策に資する可能性につながる。				
備考					